

事業名	天然ワカメ、ヒジキの分布・現存量調査(資源管理型漁業推進事業)
予算区分	県単
事業実施期間	平成25～令和2年度
担当者	(環境増養殖担当)笠井謙太郎, (海洋生産技術担当)多田篤司
共同研究機関等	

<目的>

本県沿岸では鳴門市から阿南市にかけての北中部沿岸に天然ワカメ、ヒジキが自生しているが、これらは水産資源としてほとんど利用されていない。そこで、未利用の天然海藻資源の有効利用を図るため、本県沿岸に自生する有用海藻類の分布及び現存量を明らかにすることを目的とする。

<方法>

対象種と時期は、ワカメは令和3年3月29日、ヒジキは令和2年7月3日に調査した。

1. 分布調査

・鳴門市北灘町大須沖から同町榎木漁港の波止までの直線距離で約10kmの区間を、船上からの目視により分布の概況を確認し、対象種の平均的な生育がみられる地点で、シュノーケリング調査により、対象種の生育水深帯、生育被度、生育帯の幅を測定した。

2. 現存量調査

・ワカメは北灘町沿岸、ヒジキは北灘町折野の離岸堤8基を調査及びサンプル採集地点とした。

・群落内の3カ所で0.25㎡の方形枠内の対象種を採集し、平均湿重量を算出した。現存量は、単位面積あたりの平均湿重量から、生育面積に引き伸ばすことにより推定した。

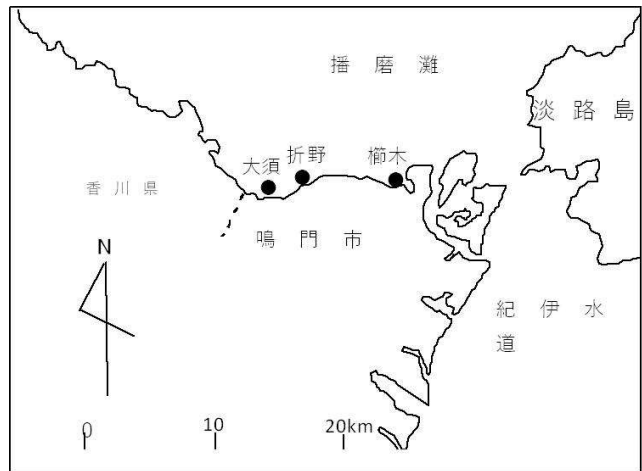


図1. 調査地点及びサンプル採集地点

<結果>

天然ワカメとヒジキの調査結果を表1に示す。

天然ワカメ

分布概況は、令和元年度と比べ生育面積は減少したものの、被度、単位面積あたりの平均湿重量は増加したため、北灘町沿岸における推定現存量も2～3割増加した。令和2年度は同地区の養殖ワカメにおいて深刻な色落ちが発生しており、天然ワカメにおいても黄色に近い藻体が多くみられた(写真1)。

天然ヒジキ

分布概況は、令和元年度と比べ被度、生育面積は同程度だが、平均湿重量が減少し、折野離岸堤8基における推定現存量は3～4割減少した(写真2)。

表 1 令和 2 年度の天然ワカメ及びヒジキの調査結果

対象種	調査日	生育水深 (m)	生育被度 (%)	推定生育面積 (㎡)	湿重量 (kg/㎡)	推定現存量 (t)	備考 (現存量推定範囲)
ワカメ	令和3年3月29日	0.3-6.2	60-100	26,310	7.32	193	北灘町沿岸
ヒジキ	令和2年7月3日	-	20-80	558	1.37	0.8	離岸堤8基



写真1. 北灘町粟田地先のワカメ群落  
(令和3年3月29日)



写真2. 北灘町折野地先のヒジキ群落  
(令和2年7月3日)

< 今後の課題 >

天然海藻資源の動向を注視し、有効活用を図る。

< 次年度の計画 >

事業は終了する。

< 結果の発表・活用状況等 >

同地区漁業者への調査結果報告(令和3年3月29日)